



2020年10月1日

株式会社海遊館 広報チーム

〒552-0022 大阪市港区海岸通1

TEL06-6576-5529 FAX06-6576-5551

<https://www.kaiyukan.com/>

(担当：萱島、新谷、林、山田、柿本)

カタクチイワシを約1万尾搬入します！ 輸送には元気に運ぶための工夫が詰まっています

大阪市港区の海遊館は、2020年10月5日（月）、兵庫県妻鹿漁港から「チリの岩礁地帯」水槽に、カタクチイワシを約1万尾搬入します。今年、カタクチイワシの搬入作業は初めてです。

カタクチイワシは北海道から九州南岸まで広く分布し、沿岸域の海面近くに大きな群れを作り生活します。日本各地で巻き網や地引き網などで漁獲されますが、漁獲された際に鱗が剥がれ弱ってしまう、非常にデリケートな生き物です。今回、カタクチイワシを傷つけず収集する技術を持つ、兵庫県姫路市坊勢島の漁師さんにご協力いただき、丁寧に収集されたカタクチイワシを運びます。

海遊館のトラック（活魚車）は、カタクチイワシを元気な状態で運べるよう、水を循環させながら走行し、水温調整ほか、常に酸素を供給できるシステムを備えています。海遊館に到着後、トラック（活魚車）から、移動用の小さな水槽に移す際、カタクチイワシを傷つけないように、水と一緒にバケツですくい、「チリの岩礁地帯」水槽に搬入するまでの間、慎重かつ丁寧に扱います。

今回の搬入作業により、カタクチイワシの展示数は約1万5千尾となり、水槽の中をダイナミックに群泳する姿がご覧いただけます。海遊館では、カタクチイワシの展示を通して、海の不思議と素晴らしさをお伝えしたいと考えています。

【取材にあたってのお願い】

カタクチイワシ搬入作業の様子を撮影していただけます。
撮影等を希望される場合は、事前に広報チームまでご連絡ください。

海遊館 広報チーム (06-6576-5529)



カタクチイワシを展示している「チリの岩礁地帯」水槽
(2020年5月20日撮影)

【搬入作業スケジュール（予定）】

10月5日（月）

11時00分 海遊館出発

13時00分 妻鹿漁港到着（港内からトラックへカタクチイワシ搬入）

14時00分 妻鹿漁港出発

16時00分 海遊館到着（水温調整ほか）

17時00分 トラックから「チリの岩礁地帯」水槽へ搬入

18時00分 作業終了

【カタクチイワシについて】

英名 Japanese anchovy 学名 *Engraulis japonicus*

カタクチイワシ科。北海道から九州南岸までの沿岸域、瀬戸内海に分布する。沿岸近くの表層付近を大きな群れ形成し遊泳する。最大約20cmまで成長し、大きく開く口の上顎が目立つため「片口」の名がついた。自然界では、様々な海洋生物の重要なエサとして生態系を支えている。

【「チリの岩礁地帯」水槽について】

水槽容量 250t 水温 18℃ 展示面積 40 m²

南米チリ沿岸の環境を再現しています。この水槽では、主にカタクチイワシとマイワシを展示しています。

【カタクチイワシ担当飼育員からのコメント】

今年9月から担当になり、初めてカタクチイワシの輸送作業を取り仕切ります。緊張していますが、必ず輸送を成功させたいと思います。カタクチイワシは、群れで泳ぐ美しさやダイナミックな様子に注目されることが多いですが、自然の海では、この群れが様々な海洋生物のエサとして、生態系を支えていることを想像していただけると嬉しいです。